

議長（竹島ユリ子君） 2番 明和善一郎君。

2番（明和善一郎君） おはようございます。

通告しております2点についてお尋ねしたいと思います。

まず1点目でございますが、農業用生産資材費の高騰に対する対応及び支援策についてお伺いするものでございます。

J A アルプスからの請願書にもありますように、石油製品の値上がりに始まりまして、次々と生産資材の値上がりが続いております。我々農家は生産資材費の節減や作業効率を考え、認定農家への土地利用の集積や集落営農組織への組織化によりこれらの問題に取り組んできましたが、ことし春からトラクター、コンバインに使用する軽油、草刈り機、動力散布機に使用するオイル混合油、乾燥機に使用する灯油など石油製品の値上がりはどうしようもない状態になってきています。また、21年産水稻、大麦の栽培に必要な肥料は輸入に頼っているリン酸肥料、カリ肥料の高騰が激しく、約2倍の価格になるものも出てきております。農薬代の値上がり、農機具については5～6%の値上がりが7月以降続いております。

農作物の価格の上昇が見込めない今日、農家の生産費削減努力だけでは到底解決できず、生産意欲の減退が進む一方ですので、国、県への働きかけはもとより、村単独の支援策について村長のお考えをお尋ねするものでございます。

次に2点目です。

有害鳥獣による被害状況と対応策、保護隊員の養成と保護隊組織の育成及び毒ヘビの駆除について村長のお考えをお伺いいたします。

舟橋村図書館へのニホンカモシカの乱入事件は新聞報道やテレビ報道により皆さんの脳裏に詳しくインプットされていることと思われま。

最近農家を悩ましていることは、ハト、カラス、スズメ、ハクビシン お手元の資料にハクビシンの顔がかわいらしく写っているかと思いますが、こういった有害鳥獣により発芽間もない大豆、枝豆の苗を食い荒らされる。種のまき直し、苗の植えかえ作業をさせられる。出穂したばかりの水稻の稲穂をスズメにより収穫皆無にされたり、品質低下の原因になったりと、また白岩川沿川の畑では、イチゴや収穫目前のスイカ、アマウリをハクビシンに食べられる被害が増えてきております。農作物への有害鳥獣による被害が拡大しているわけでございます。

近隣の市や町では、有害鳥獣対策として、きょうの北日本新聞に見られるように、保

護隊員の養成や保護隊組織の育成に力を注ぎ、対応に当たっておられますが、舟橋村には保護隊員、保護隊組織がない状態であります。早急に育成を図り、対策に当たるべきではないでしょうか。

また毒ヘビ（マムシ）の生息駆除状況ですが、ことしも竹内地内の細川排水の堤防において3カ所、お手元の地図に×印がしてあるかと思いますが、ここでは3匹駆除しております。竹内地内の農道2カ所、お手元の地図では印のところでございますが、ここでは4匹発見されております。私の聞き取り調査ではこのような数字になっておりますが、このほかにも生息していると思われまます。水田の管理作業に当たる農家の人や、舟橋地区の雇用促進住宅横の公園が駆除された場所のすぐ横に位置しておりまして、ここで遊ぶ子どもたちのことを考えると、今後は専門家に依頼するなど、安全対策、駆除対策に取り組むことが重要と思われまますが、お考えはいかがでございましょうか。

次に、近隣の町の中山間地においてミズナラ等に被害を与えているカシノナガキクイムシ、俗に言うカシナガですが、スーパー農道付近のクリの木にも被害が見られている状況から、村内に植えられているクリの木の調査も、何本程度あって被害はあるかないかということの調査も必要な時期になってきていると思われまますがいかがでしょうか。

以上の事柄について、村長のお考えをお伺いいたします。

以上であります。

議長（竹島ヨリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 2番明和善一郎議員のご質問にお答えしたいと思います。

まず初めに、農業用生産資材の高騰に対する対応及び支援策についてのご質問であります。

議員ご指摘のとおり、原油の高騰などによりまして、農業は大打撃を受けております。国においては、急激な燃料、肥料高騰に対し、今年度の補正予算で緊急対策が実施されることになっております。その内容は、施設園芸産地における燃料使用量の節減を目的とした施設整備や、省エネルギー効果のある資材の導入に対する支援、そしてまた施肥コスト低減に取り組もうとする産地が、土壌診断などによる施肥設計の見直しを図る取り組みなどへの支援が主たるものであります。

また、当村を管内とするアルプス農協におきましては、これらの緊急対策のうち、土壌診断等による施肥設計の見直しの取り組みに対する支援を国、県のほうへ申請したというふうに伺っているところでございます。

議員からは、村として何か支援策を講じるべきでないかという指摘もありましたし、先日、アルプス農協から正式な要請を受けたところでもあります。農家の方々が大変苦労されていることにつきましては重々承知しているところであります。

しかしながら、原油高騰の影響を受けているのは他産業も同様でありますし、またさらに、住民一人一人があらゆる場面で日常的に影響を受けていることも十分理解することが大切でないかと考えております。

今後、国、県へ一層の制度の拡大、拡充を求めていくことはもちろんのこと、村単独での緊急対策につきましては、近隣市町の動向を考慮いたしまして、本村に適合する対策に慎重に取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、何とぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

次の質問の有害鳥獣への対応についてでございます。

村といたしましては、被害の把握はしておりませんが、近隣自治体では比較的被害が多く、保護隊を組織し対応されているところもあれば、猟友会に依頼されている自治体もあります。捕獲隊のメンバーは猟友会が兼ね、保護の有資格者などが捕獲に当たることです。近隣自治体には山間部があり、昔から必要に迫られて、そういった組織ができたものと推察しているところでございますが、ただ、議員がご指摘されているとおり、中には自治体職員が保護隊になっているという市町村もございます。

そういうことで我が村ではどうかというご提案でございますけれども、職員が少ない中でそういった人員を確保することは現状では大変難しいと思っております。また、過日、クマの足跡が村内で発見されております。皆さんご承知のとおり、舟橋村の3.47平方キロメートルの小さな村の中に、住宅地も結構密集しておりますので、逆に村内のそういった保護隊の方が銃を持っているということになりますと、意にそむいて失礼でございますが、反対に不安を抱くといえますか、銃の所持によってそういうことも考えられるんじゃないかならうかというふうにも思っております。

村といたしましては、当分の間、こういった有事に当たりましては、これまでどおり近隣の市町の猟友会に依頼をして、対処してまいりたいと考えておりますので、どうかご理解いただきますようお願いいたします。

また、一方では、同時に有害鳥獣が住みにくい環境づくりに取り組むことが大切であると思っております。以前ありましたように、野ネズミの一斉駆除を地区ごとにやっておりましたけれども、そういったことやあるいは堤塘の草刈りの徹底などによりまして、

有害鳥獣が住みにくい環境も我々行政の立場から啓発啓蒙していくことも大切でなかろうかというふうにも思っておりますので、そういった面からも農家の皆さん方には協力をお願いしたいというふうに思っている次第でございます。

最後に、村内のクリの木に対するカシノナガキクイムシ、通称カシナガの被害調査の件でございますが、ご案内のとおり本村ではクリを生産している方はおいでになりません。主に民家の自宅の敷地内にクリを植えているのがほとんどでないかと思っております。舟橋会館の敷地内に1本の幼木があるというふうに聞いておりますが、私は調査しておりませんが、今のところカシナガの被害があったというふうに把握していないのが実態であります。毎年この時期になりますと、民家のカキの木などにシナンタロウとかチャドクガなどによる被害が発生しているところでございます。そして、それに対応して、それぞれ個々に駆除をしたり、あるいは集落ごとによっておいでになる場所も聞いております。こういった経緯も踏まえまして、村としてはクリの木の調査は、特定の方に対する配慮でなかろうかということも考えまして、公平性の観点からちょっと難しいと考えております。村としてできることは、広報などでそういった注意を促すことに限られるのではなかろうかと思っておりますので、そういう点もご理解いただければ幸いです。

今後とも、そういったことにつきましては皆さんにお願いするということと、啓発啓蒙に努めることも大切でなかろうかというふうに思っておりますので、今後ともそういった面での行政のあり方を進めてまいりたいと思っておりますので、何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます、私の答弁にかえさせていただきたいと思えます。

議長（竹島ユリ子君） 明和善一郎君。

2番（明和善一郎君） 今の答弁の中で、マムシの部分が抜けましたので、きちんと答弁していただきたいと思えます。

議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 再質問でマムシの件でおっしゃったわけでございますけれども、私も以前、八幡川の堤防の付近に田んぼを持っておりまして、稲刈りのときにはマムシを見たこともありました。そういうことで、生息という失礼ですけども、我々国重の住民は対岸のことを言っているわけですね。八幡川の竹内の堤にはマムシがいるんだと、だから気をつけるという昔からの伝説的な話があるわけです。

明和議員さんはそうおっしゃいますが、言葉は悪いかもしれませんが、そういった毒

ヘビとも共存するといいますか、そういった注意をするということで被害を防ぐといえますか、だからマムシをすべて退治せよということは、私はちょっと不可能でなかろうかと思います。特にことしみたいに豪雨が続きますと、川の上流からマムシ等が流れてきますので、そういった面で注意しなさいとか、こういうものが発見されたというような情報を提供することが一番望ましいのではなかろうかというふうに思っています。

答弁にならなかったと思いますが、そういう点でお許しいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。